

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2024年7月分)

2024年8月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[スレブレニツァの虐殺29周年追悼行事の開催\(11日\)](#)

●[国有財産問題に係るBH憲法裁判所の決定\(11日\)](#)

●[2024年度国家予算の採択\(19日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[サウス・コネクション・パイプラインの計画に対するクロアチア系カントンの同意拒否\(29日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[プリエドル及びブラトゥナツツにおける戦争犠牲者の追悼行事\(6日、7日\)](#)

●[「平和的關係解消」に関する動き\(9日\)](#)

ウ ブルチュコ特別区

●[ディアスポラ・ビジネスフォーラムの開催\(31日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[コナコビッチ外相のNATO首脳会合出席等\(8日～15日\)](#)

●[西バルカン成長計画に係る「改革アジェンダ」の不採択\(24日\)](#)

(2) 二国間関係

●[ベチロビッチ大統領評議会議長の訪英\(16日～18日\)](#)

●[セルビア警察との協力をめぐる対立\(19日～28日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[杵渕大使のスレブレニツァの虐殺追悼式典参列\(11日\)](#)

●[上川外相のBH訪問\(18日～19日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●スレブレニツァの虐殺29周年追悼行事の開催(11日)

11日、スレブレニツァ近郊のポトチャリにおいて、95年に発生したスレブレニツァの虐殺29周年の追悼行事が開催された。本年はスレブレニツァの虐殺に係る国連総会決議の採択(本年5月)から初の追悼行事となり、厳重な警備体制のもと平和裡に終了した。式典にはシュミット上級代表のほか、BHからベチロビッチ大統領評議会議長、コムシッチ同メンバー、ヘレズ国防大臣等の要人が出席。また、諸外国からはゴルチェビッチ・モンテネグロ欧州担当大臣、サンタナIRMCT長官が出席し、スピーチを行った。日本からは杵渕大使が出席した(2(3)も参照)。ドディックRS大統領は行事を受け、セルビア系の紛争犠牲者のみならずボシュニャク系犠牲者にも哀悼の意を表明する等、従来の過激な民族主義的発言とは異なる落ち着いた反応をみせた一方、ベチロビッチ議長のスピーチに対し、スレブレニツァを政治利用してセルビア系への憎悪を露わにしていると強く批判した。

●国有財産問題に係るBH憲法裁判所の決定(11日)

11日、BH憲法裁判所はヴァレシュ(BH連邦、ゼニツァ・ドボイ・カントン)の森林の利用に関するBH連邦政府の法改正(英企業「アドリアティック・メタルズ」による大規模鉱山開発のため、国有林の利用に際してBH法務局の許可を不要とする内容)を無効化したほか、RS政府によるヤホリナ山(サラエボ近郊)の国有地売却を無効化する決定を下した。憲法裁判所によれば、これらの土地は国有財産であり、2005年のアッシュダウン法による移管禁止対

象。これまでBH憲法裁判所が判断してきたとおり、エンティティ政府には国有財産の管理・売却等に関する権限はない。したがって、今般のBH連邦政府の決定は無効となる。

●2024年度国家予算の採択(19日)

BH上院において2024年国家予算案が採択された。本年度予算は政治的対立によって年度を半年越えても合意出来ない状況であったが、「西バルカン成長計画」に係るEUからの大型支援(約10億ユーロ)やEU加盟プロセス進展への期待により7月1日の与党会合で政治的合意が行われ、今般の採択に至った。本年度予算は総額13億5,540万KM(約6.9億ユーロ)であり、前年比4,000万KM増(+3%)。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●「南部相互接続」ガスパイプラインの計画に対するクロアチア系カントンの同意拒否(29日)

アゼルバイジャン産のガスをクロアチア経由で輸入する「南部相互接続」(サウス・インターコネクション)がガスパイプライン建設計画につき、BH連邦のクロアチア系多数派の3カントンが計画に同意しない旨を表明。現在、同3カントンはモスタル(ヘルツェゴビナ・ネレトバ・カントン県都、クロアチア系の政治的中心)への支線建設等、計画の変更を求めている。

今般のカントンの不同意は、2021年6月に「BHガス」により行われたBH連邦の空間計画省に対するパイプラインの建設許可申請を受けたもの。連邦の空間計画省は、空間計画・土地利用関連法に基づき、パイプラインの予定通過地である西ヘルツェゴビナ・カントン、第10カントン、ヘルツェゴビナ・ネレトバ・カントン及び中央ボスニア・カントンに対し意見を

求めていた(中央ボスニア・カントンのみ、2023年11月に建設計画に合意)。

イ スルブスカ共和国(RS)

●プリエドル及びブラトゥナツにおける戦争犠牲者の追悼行事(6日、7日)

6日、ブラトゥナツ(スレブレニツァ近郊)にて、スレブレニツァの虐殺追悼日を前にボスニア紛争中のセルビア系犠牲者の追悼式典が開催された。また、翌7日にはプリエドル(注:ボスニア紛争中に、近郊にRSの強制収容所が設置され、多くのボシュニャク系が殺害された)において、1942年の「コザラの戦い」(ナチスとパルチザンの戦闘)のセルビア系犠牲者追悼行事が開催。両市において、セルビア本国の軍関係者による行進が実施された旨報道された。

ベチロビッチBH大統領評議会議長は、本行事が「全セルビア人会議」を受けた大セルビア的行動の始まりであると批判。また、ヘズズBH国防大臣は、セルビア軍のBH入国について許可を与えていないと述べつつ、今般の行進は士官学校の士官候補生によるものであったと明らかにした。

●「平和的關係解消」に関する動き(9日)

7月2日、RS政府はRSとBH連邦の「平和的關係解消」合意に係る文書をRS国民議会に対して配布。「平和的關係解消合意」はエンティティの關係を定義し、独立した主權をもって機能することを定めたもの。7月9日にRS国民議会の特別セッションで採択に係る議論が実施予定であったが中止となった。他方、7月2日、RS国民議会において6月の「全セルビア人会議」の宣言が採択された。

ウ ブルチュコ特別区

●ディアスポラ・ビジネスフォーラムの開催(31日)

31日、ブルチュコにおいてディアスポラとのネットワーク構築及び投資の促進を目的としたビジネスフォーラム「BhdiaFor2024」開会式が行われた。式ではニシッチ・ブルチュコ市長のほか、コフマン＝クルニッチ駐BH・USAID副所長等がスピーチを行い、ビジネスの中心地としてのブルチュコの役割、地方自治体の経済的發展の促進、BH経済においてディアスポラの果たす役割の重要性等を強調した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●コナコビッチBH外相のNATO会合出席等(8日～15日)

コナコビッチBH外相は、NATO首脳会合出席のため訪米。同会合で10日に採択された宣言には、西バルカン・黒海地域の戦略的重要性及びNATOとして同地域の欧州・大西洋統合に向けた改革及び地域協力強化を強く支持していく姿勢が示されたほか、BHの安全保障、及びハイブリッドな脅威に対抗する同国のキャパシティを高めるための支援を行うとの記述あり。

訪米中、コナコビッチ外相はNY及びセントルイスで開催されたスレブレニツァの虐殺29周年追悼行事に出席。ジェノサイドの真実を認定し、記憶を語り継いでいくために本年5月の総会決議が採択された旨強調した。

●西バルカン成長計画に係る「改革アジェンダ」の不採択(24日)

BH閣僚評議会は、EUの西バルカン成長計画への参加のため必要な「改革アジェンダ」の採択に失敗した旨発表した。これにより、BH

は西バルカンで唯一、改革アジェンダを提出できなかった国となった。

RSは以前よりアジェンダの113項目のうち
の3項目(BH全土共通緊急電話番号の導入、
国家から各エンティティへの資金配分時の各
エンティティの拒否権の廃止、BH憲法裁判所
の空席補充)に反対。報道によれば、RSへの
譲歩によって緊急電話番号がアジェンダから
削除され、RSの拒否した2項目を除く110の
項目で合意したアジェンダをEUに提出するこ
とを目指していたが、ボシュニャク系多数派の
4カントン(首相はいずれもSDA所属)からの
合意が得られず、結果として不採択に終わっ
た。

(2) 二国間関係

●ベチロビッチ大統領評議会議長の訪英(16日～18日)

16日～18日、ベチロビッチBH大統領評議
会議長は、英国におけるスレブレニツァの虐
殺追悼式典への参列及び欧州政治共同体サ
ミットへの出席のため、ロンドンを訪問。チャ
ールズ英国王と面会したほか、会合のマージ
ンでショルツ独首相、マクロン仏大統領と会談。
独・仏両首脳に対し、RSの動向の地域情勢
に対する危険性を強調し、両国によるBHのE
U・NATO加盟及び右に向けた改革への支援
に対する謝意を改めて述べた。

●セルビア警察との協力をめぐる対立(19日～28日)

7月19日、ダッチ・セルビア内相のトレ
ビニェ訪問(6月18日)の際に署名されたMOU
に基づき、観光シーズンの警備体制強化のた
め、セルビア警察の部隊をRS内に派遣する
との決定が行われ、ボシュニャク系野党が激
しく反発し、セルビア系による大セルビア
的動きを現ボシュニャク系与党(トロイカ)
が容認してい

ると批判した。なお、セルビアによる警察
派遣は中止となった。

28日、コナコビッチ外相は記者発表で20
11年にBH・セルビア間で署名された警察の
協力に係る合意文書を提示。不平等な内容
を含んでいると指摘しつつ、そうした合意を
承認したのは当時の大統領評議会メンバ
ーであるイゼトベゴビッチSDA党首及び
コムシッチ現同メンバーであり、トロイ
カへの批判は的外れであると強調。さら
に、同合意の破棄に向けて動く旨明らか
にした。

ダッチ・セルビア内相は、協力合意の破
棄に係る発言を受け、ボシュニャク系に
よる対セルビア憎悪の典型例であると批
判。コナコビッチ外相はさらにセルビア
へ公開書簡を送付し、国際指名手配を受
けている戦争犯罪人をセルビアが司法機
関及び警察を使って隠匿していると非難
した。

(3) 日・BH関係

●柞淵大使のスレブレニツァの虐殺追悼式典参列(11日)

11日、柞淵駐BH日本大使は、スレ
ブレニツァ市郊外のポトチャリにおいて
実施されたスレブレニツァの虐殺29
追悼式典に諸国大使と共に参列し、
記帳簿への記帳と献花を行った。

●上川外相のBH訪問(19~20日)

19日~20日、上川陽子外務大臣はBHを訪問。シュミット上級代表、クリシュトBH閣僚評議会議長と会談し、コナコビッチBH外相とワーキング・ディナーを開催したほか、当地国連代表部でWPSに関連する活動を行うNGO等との意見交換を実施。BH博物館で漫画展を視察したほか、スレブレニツァの虐殺に関する展示を行っているギャラリー11/07/95を訪問した。

上川大臣は訪問の最後に、紛争という歴史を経て、平和を維持するために多くの努力が不可欠である点を改めて強調するとともに、分断が深まる国際情勢の中で、日本としての平和構築に向けた支援の継続につき改めて述べた。



(写真:シュミット上級代表との会談)



(写真:クリシュト閣僚評議会議長との会談)



(写真:コナコビッチ外相とのWD)



(写真:WPSに関するNGOとの会合)



(写真:漫画展)



(写真:ギャラリー11/07/95 訪問)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2024年5月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比1.8%のマイナス。また、昨年同月比10.4%のプラス。

また、2024年6月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比0.4%のマイナス。また、昨年同月比5.6%のマイナス。

●雇用／失業率

2024年5月の失業者登録数は32万4,517人(うち女性19万1,913人)で、前月比で1.6%マイナス、前年同月比で5.9%マイナス。

●平均給与

2024年4月の平均給与(手取り)は1,388 KMで、前年同月比で8.9%のプラス。

●消費者物価指数

2024年6月の消費者物価指数は前月比で0.5%のマイナス。また、前年同月比で平均1.6%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.9%のプラス。

●貿易収支

2024年1月～6月のBHからの輸出総額は79.64億KM(前年同期比8.3%減)、BHへの輸入総額は145.1億KM(前年同期比3.1%増)。貿易収支は68.7億KMの赤字。

●観光客数

本年1月～5月の外国人旅行者数は406,450人(前年同期比+7.2%)。旅行者出身国の上位5カ国はクロアチア(76,086人)、セルビア(65,181人)、トルコ(47,541人)、スロベニア(29,186人)、中国(20,231人)。

(2) 経済政策・公共事業

●サラエボ市トラム新型車両の配送(13日)

本年3月に運用が始まったサラエボ市の新型トラムは、購入された全車両の配送が完了。8月より全車両の運行が開始する予定。

(3) 経済協力

●観光分野における米国との協力(23日)

USAIDとBHの観光分野における協力(USAIDツーリズム・プロジェクト。2020年に開始した2000万米ドル規模のプロジェクトで、期間は5年)の一環として、サラエボ最古のタクシー会社である「サラエボ・タクシー」との協力を開始。本プロジェクトの枠内において、タクシー運転手への研修の実施、及びUSAIDの提供する研修サイトへの無料アクセス権の提供が行われ、旅行者が初めに接することの多い運転手によるガイド情報の提供、サービス向上等に資することが見込まれている。

(4) 民間セクター

●ビハチ・ビール醸造所の買収(14日)

クロアチア及びBHに展開する飲料販売大手のスタニッチ・グループは、ビハチ(BH北西部、ウナ・サナ・カントン県都)のビール醸造所の買収を発表。同社資本の50%を保有し、将来的にはさらに49%の保有を見込んでいる。同醸造所は近年業績不振に陥っており、昨年は前年比で約200万KMの減収を記録し、170万KMの損失を出していた。